



湾岸・アラビア半島地域ニュース

アフガニスタン：資源開発と中国企業の進出

(5月17日付 Ottawa Citizen)

中国企業が、カブール南西 Aynak 谷の鉱物資源開発事業を落札した。

1. Aynak 谷には、アフガン全体の GDP(2007 年)の二倍を超える 880 億米ドルに相当する世界最大級の銅埋蔵量がある。昨年 11 月、中国冶金グループ (China Metallurgical Group) が 30 年リース契約をアフガン政府から得たが、これはアフガン史上最大の外国投資民間事業となる。見方を変えると、2001 年以降の対アフガン援助全体の 20%、見込まれる年間ロイヤリティーは国家予算の 45%にあたる 4 億ドルに相当する。

2. 数少ない楽観主義者でもあるアデル鉱業大臣は「10～12 年後には、アフガンの人々はまともな生活水準に到達し、アフガンはもはや外部から融資を受ける必要もなくなるだろう」と述べた。

3. 課題もそれなりにある。治安も脆弱であり、掘削施設、電力発電ほか必要な施設をそろえるのに 5 年はかかるだろう。中国のアフリカ進出でも問題となっているが、巨額の資金を受け取り、ないしは、社会・環境面のコストを見極めるだけの受け皿がアフガン側には整備されていない。

4. それでも、銅や鉄、アルミ、石油、天然ガス、大理石や貴重石の豊富なアフガンをビジネスの視野に入れる多くの企業にとって、Aynak 事業は、テストケースと捉えられている。上手くいけば、タリバンの活動資金源であり、GDP の 4 分の 1 を占める麻薬栽培を止めることができるかもしれない。アデル大臣は、「雇用創出につながれば生活への満足感が広がり、過激主義への一つの解決法となるだろう」と述べた。

5. かつてソビエトが調査したこの谷は。ムジャヒディンの犯行やアル・カーイダの訓練地となり、内戦を経てようやく経済的視点から再び日の目をみることになった。ロシアの古い調査報告や地図をベースにしつつ、英国関係者による調査を経て、ロシア・米・インドを含む各国から 14 の鉱山開発企業が国際競争入札に参加した (うち 9 社がショートリスト入り)。

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799